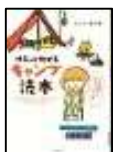


今月の PICK UP

『ゆるっと始めるキャンプ読本』 こいし ゆうか／著 KADOKAWA 786.3



10月になると気候的に過ごしやすくなり、野外で活動するのによい季節になってきます。そこでキャンプでも始めてみようかなという方もいるのではないのでしょうか？本書は、キャンプ初心者にもわかりやすく、キャンプ道具の揃え方、キャンプ場の探し方、お勧めキャンプ場情報や簡単キャンプ飯レシピ等々、人気キャンプコーディネーターのこいしゆうかさんが手取り足取り教えてくれる超実践的コミックエッセイです。役に立つ詳しい情報が、手書きの文字とかわいいイラストで描かれていて、読みやすい内容となっています。誰もキャンプに魅力を感じてしまう1冊になるのではないのでしょうか。

『もし京都が東京だったらマップ』 岸本 千佳／著 イースト・プレス 302.1



京都出身、東京と京都で不動産の仕事をしていた著者は、お客さんと接する中で、「京都は好きだけれども、地域性や街の違いについてはよく知らない」という人が案外多いことに気付きます。そこで、「京都の〇〇は東京でいうところの△△」的なマップがあるとわかりやすい、と思い本書を作りました。あくまでも著者個人の主観による地図という前提ですが、プロならではの観察眼が随所に見られます。

司書の
おすすめ



『漬物風物誌』 宮尾 茂雄／著 日本食糧新聞社 628.8

私たちの食卓にのぼる漬物は、少なくとも1300年の歴史があるそうです。漬物が作られる各生産地を著者が実際に訪ね、それぞれの作られ方や歴史などを取材しています。たくあん漬けの名前の由来や、漬物に重要な塩の作り方など、多くのエピソードが紹介されています。

京都大原のしば漬や大津上田上の菜の花漬など、色あざやかな写真にも目をひかれます。



『竹取物語』 森見 登美彦／訳 河出書房新社 913.3



なにかと竹に縁のある作家・森見登美彦が、彼ならではの語彙と言い回しで竹取物語を現代語に訳しました。残酷な美女が登場し、阿呆な男たちが右往左往し、片想いは破れる。自身の小説との間にあるいくつかの共通点から、思い入れたっぷりに訳された物語の登場人物たちはいずれも個性豊か。特に5人の求婚者たちには、こんなにもキャラクターの立った面々だったのか、と驚かされるはずです。

『文化財に泊まる。』 偏愛 はな子／著 エクスナレッジ 291

我が国の文化財は、国民的財産として当時の趣を大切に、時代を超え守り続けられてきました。本書では、そんな国指定の重要文化財等を間近で鑑賞でき、しかも宿泊できる歴史的建造物を紹介しています。建物内外の細部に渡る素晴らしい装飾や、当時から使用されている重厚な調度品の写真も多く掲載されており、「文化財に泊まる。」という貴重な体験に胸が膨らむ1冊です。

